

今週の一枚： マニラ湾の夕日

撮影日：2011年6月14日

マニラ湾の夕日は「世界三大夕日」の一つともなっている。

その夕日を収めようと、当日の朝刊で、日の入り時間が午後6時26分であることを確認、目的地までの交通渋滞状況も計算にいれ、事務所を出た。

撮影地点もあらかじめ決めてある。

いるいる、三脚を構えたカメラマンが数組。

一番気になっていたのは、お天気であった。

昼間は快晴であり、今日は絶好と思っていたが、この時間に近づくころから、怪しくなってきた。

そして、いつのまにか、お日様は雲間に隠れてしまい、辺りは暗くなってくる。

「真紅に染まる空と海」には程とおく、いつ沈んだかも分からないまま夜になってしまった。

それでも、その間に、しつこく撮った一枚がこれである。見れば、それなりの夕日の風景のようだ。

横切るのはマニラ湾を就航する遊覧船。食事をしながら「夕日みて一杯」である。

船内の生バンド演奏も聞こえてくる。

この後、ライトが点灯し、マニラ湾の夜を彩った。

マニラ湾の夕日は水平線に沈むのではなく、湾を囲むバターン半島に向けて落ちていく。

半島の向こうは南シナ海となり、ベトナムに近づく。

この穏やかな景色を包み込んでいるマニラ湾ではあるが、先の大戦でのいくつかの悲惨な記憶がしみ込んだ場所でもある。

風化させてはいけない記憶ではあるが、時はまさに矢のように過ぎていく。

